



ツバメの巣は、何で作っているの

巣のおもな材料は、どろとわら

ツバメの仲間の巣は、「どろ」と「わら」と「だ液」が材料です。種類によって、作る巣の形がちがいます。ふつうのツバメは、おわん形、コシアカツバメ・イワツバメは、お酒を入れる「とっくり」のような形、ミナミツバメは、皿のような形です。

ツバメは、ほとんど空中で生活しています。しかし、巣を作るときだけ、どろやわらを取りに地上にあります。どろをだ液とまぜたものに、わらや糸くずなどをまぜて巣を作ります。変わった例では、北海道だけにいるショウドウツバメは、川のがけに穴をほって巣を作ります。

土蔵や、昔の家のかべ

古い土蔵や昔の家のかべは、「土かべ」でした。ツバメの巣と似ています。土かべは、どろとわらと海草をまぜ合わせたものを、網の目のようにあんだ竹の支柱に、ぬりつけています。この場合は、海草が、ツバメのだ液にあたる「のり」の役目をしています。

高級料理、ツバメの巣のスープ

高級な中華料理の一つに、ツバメの巣のスープがあります。これは、どうくつや岩べきのさけめなどに巣を作る、アナツバメの巣です。巣を見つけるのも取るのも大変です。巣は、海草を、だ液で固めたものです。アナツバメは、本当はツバメの仲間ではありません。

(監修・今泉 忠明)

